

令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	247名

1. 使用状況

寄贈物品名	コンパクトテーブルソー 他
使用学年及び人数	中学部、高等部全学年 134人
使用頻度	作業学習 年間をとおして使用
使用状況	<p>作業学習において木工製品づくりに取り組んでいる。生徒が一人で活動するための補助具の部品加工や作業製品の部品を作るために使用している。中学部では、作業学習のある時期に集中して使っており、高等部においては、通年での使用としている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>①のこぎりを使って切るための補助具が作成できたことで、生徒が一人で製品の部品となる木片を正確に切ることができた。</p> <p>②作業製品「小物入れ」の部品である底板を大量生産することで、生徒たちの作業生産効率を高めることができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>新製品の製作において必要な補助具づくりや製品部品づくりに今後も有効活用できると考える。現状、一部の教員が使用している状況なので、安全に使えるように全校に周知していく中で、生徒が触れられる機会を見出していきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>生徒自身が木工加工機械に対する興味を持つことで、作業学習に対する意欲や技術向上を目指す態度につなげたい。</p>

2. 活用の様子



補助具のガイドにのこぎりの刃を入れることで、一人で正確に材料を切ることができた。



教師が作った底板と生徒が切った部品でできた側面を組み合わせて完成。



完成した小物入れ